



八田 告先生

医療法人八田内科医院/近江八幡市立総合医療センター腎臓内科

1) こんなところで働いています (^▽^)

2013年から京都市内で開業医をしています。医師は老体に鞭を打って頑張っている父と元放射線科医で大学の健康管理をしている家内の三人。まさに家内工業です。小児科も標榜し、近所の幼稚園の園医もしています。近所に在宅専門医がいるので、在宅医療こそはしていませんが、日々高齢者のADLと認知機能低下と奮闘しています。週に一回、近江八幡市立総合医療センター腎臓内科としてシャント手術補助、腎臓専門外来、若い先生たちとの英文論文抄読会と腎生検組織カンファレンスで鋭気を養っています。



2) 私のサブスペはこれだ！

腎臓、高血圧、循環器内科の専門医 2002年から京都府立医科大学腎臓・高血圧内科の診療主任として腎臓病診療を立ち上げ、2006年から2013年まで近江八幡市立総合医療センター腎臓センター長としてTotal kidney careをモットーに若い先生に支えられながら取り組んできました。

今は、京都腎臓医会を設立し腎臓専門医と開業医の連携促進やCKD啓発をして早期発見早期治療を促す役割を担っています。

3) 自分がGenespelistであると感じるときは？

腎臓専門医機能を求めて患者さんが遠方から来られる一方、近所のお年寄りが様々な症状を訴えられたときに、専門外疾患に対して対応できたとき。

4) Genespelistを勧める理由は？

私は、以前より自分が指導していた若い腎臓専門医の先生に『専門医バカになるなよ！』と話してきました。狭間の病気をどんどん診せてもらって成長しよう！幸い、腎臓は『全身の鏡』と言われるように全身疾患との関連が深い臓器なので、全身を診れるようになることは大きなメリットです。またそのことが、自分の専門分野の知識や疑問にフィードバックされるきっかけになると思います。

5) 日本の医療を支えるのにGenespelistは必要？

絶対に必要だと思います。すべての医師がずっと大学病院の専門医として残るわけではなく、通常は、人事異動で地方の病院に赴任することが多い。その際に、私は腎臓しか診れません、なんて医師は不要です。現場のニーズに応じてspecialistとgeneralistを使い分けられる医師こそが、令和時代に求められる内科医なのです。

6) あなたにとってGenespelistって？

私の理想像であり、医師としての根幹です。

7) 最後にGenespelist推進メンバーとして一言

この活動に賛同して頂ける先生を募集しています。詳しくは、HPをご覧ください！

<https://genespelist.jimdofree.com/>



八田内科医院忘年会
スタッフ集合写真